QUEEN OF THE BEAST. -ORIENTAL ZODIAC WAR-

獣の女王

ケモノ　ジョ　オウ

横田卓馬

Presented by Takuma Yokota

前編（ゼンペン）

十二支と呼ばれる
この十二頭の獣の並びは

「釈迦の元に
新年の挨拶に訪れた
動物の順番」として
知られているが
実際のところは
そうではない…

クックッ
理解が早いな
小娘…！
ほめてやるぜ
そして今まさに
この時代に
その五千年周期が
まわってきたってわけだ…！

俺様の名は
「蛇王」…！
六番目なんぞに
甘んじていい
存在じゃねェ…!!
いいか小娘、
この夢から
覚めた
その瞬間から…
てめえは
俺様の
手駒だぜ…!!

この物語は――…

一人の少女と
一匹の獣が

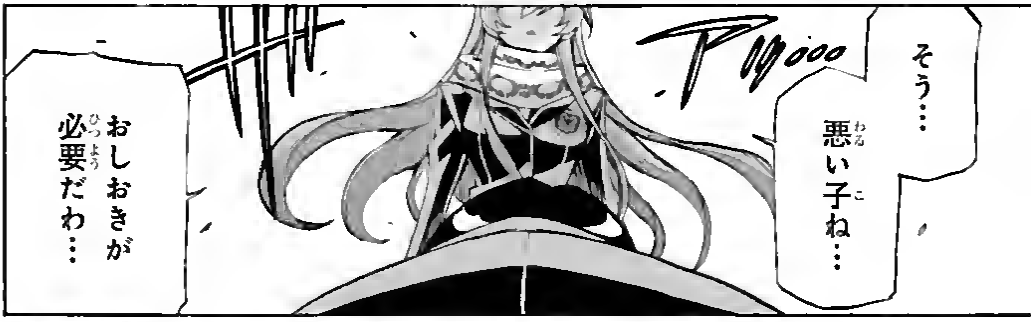
「王」を目指す物語である――
おは――
あッ
きゃあッ！
おはようございますう真壁様！

ふふっ
おはよう
今日も
いい朝ね
女王
真壁様ッ
真壁様が
ご登校
なされたーッ
きゃあ――ッ
今日も
お美しいわぁー！

ああ
我らが女王
真璧様ッ
全校生徒の
憧れの的ッ
男女問わず
あなたに
首ったけ！
グラビアアイドル
顔負けの
スタイル！
ちょっぴり切れ長
目つきもセクシー！
Sっぽいところも
そそられるぅ！
女子高生
離れした
その美貌——ッ
いつしかついた
あだ名が
「女王」——ッ！
ああ今日も
ごきげん
うるわしゅう——！

真璧様ァ
――ッ！
ついに
不逞の輩を
とらえましたァ
――ッ
おら！
早くこっち
来い！

先日の
真璧様のお持ち物が
次々盗難にあった事件
全てこの者の
仕業でした！
おら！
正直に言え！
どんな匂い
だった!?
おおお
お助けをお…！
つつつい 魔が
さしてえ…！
なんて
ハレンチな…
許せねえ…！
早く
どんな匂いだったか
答えやがれ
ってんだ…！


そう…
悪い子ね…
おしおきが
必要だわ…

どどど
どんな罰
でも…！
甘んじてええ
ええ…！

えいっ
おしり
ぺんぺんっ
もう
やっちゃ
だめよ？
はっ…
はほああ
あああ…
ちち誓いますぅ！
私 宅野玄五郎
未来永劫！
真壁様
私も！
私にも
おしり
ぺんぺんを！
盗み働きなど
いたしまッ…
セッ
まっ
んっ
かべっ

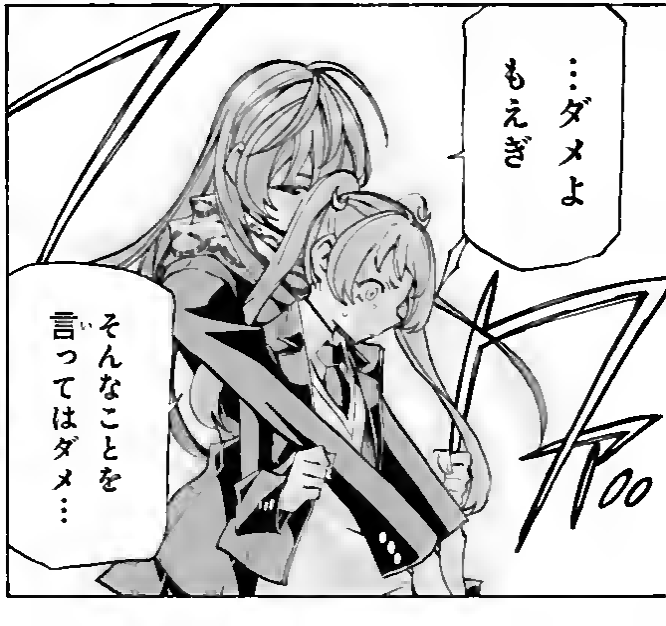
ちーーん!!
キャ〜〜〜〜ッ
あらあら
あらあら
ふふっ
おはよう
もえぎ
今日も
一段と
かわいいわ!

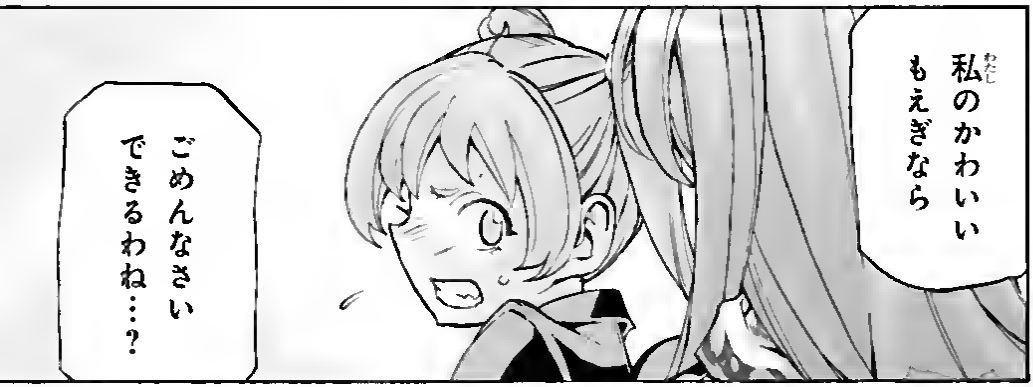
えへへ～～
おはよっ
まかべちん!!
もお どうしたのもえぎ
今日はいつもより甘えんぼさんね
だってまかべちん寒そうだからあっためてあげようと思って～～～
お…おい…!
た…宝田もえぎ!
恐ろしい子…!!
意外と大惨事だ!
いくら盗人相手だからってやりすぎだぞ!
まあ…!
そのブタがまかべちんのもの盗んだのが悪いんじゃ――ん!
べ――っ!

くぅ〜〜〜！
生意気な
小娘め！
真璧様が
こんな仕打ち
許すはずがない！
まったく とても
真璧様の
お付きの者とは
思えんぜ!!
むかっ
ピク!!

うるさいうるさい！
もえぎは
まかべちんのために
ブタ野郎を
成敗したんだから!!
大体 おしりぺんぺんだって
元々もえぎだけに
してくれてたのに
勝手に取ったクソブタ人間は
極刑でしょ!!

彼はきちんと
反省の態度を
示していたわ
いくら私のため
とは言え…
これは少し
やりすぎよ…


…ダメよ
もえぎ
そんなことを
言ってはダメ…

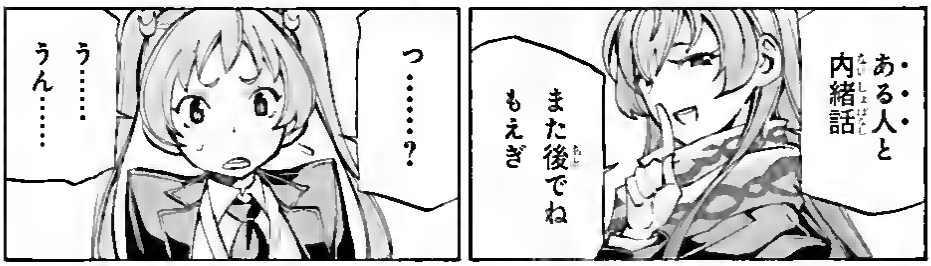

私のかわいい
もえぎなら
ごめんなさい
できるわね…？

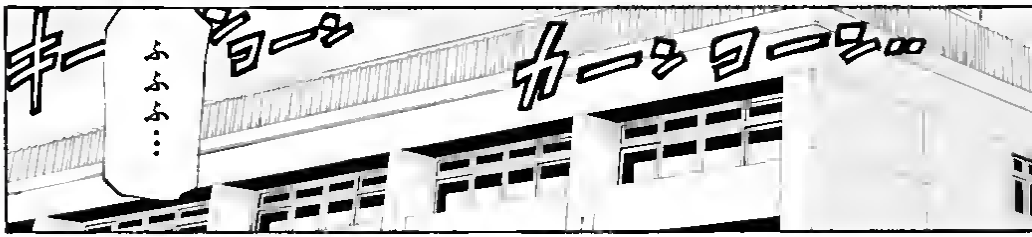
ッ〜〜〜〜〜……
ごめん
なさい…っ
ん！
良い子ね
もえぎ

決まった
――！
真璧様の
大岡裁き！
これにて
一件落着
だァ〜〜〜
〜〜!!

ふふ…ふ
真璧様…
私のような者の身を
案じていただき
光栄至極…
ドコッ!!
しかし心配は
ご無用です
なぜなら
私にとってこの痛み
ごほうび以外の
何モノでもない
こいつ…
上級者
だった…！

けっ…
くだらねェ
茶番だぜ…
あっ
まかべちん
待って！
ふー
おつかれー
いやー
いいボウリングだったね
どこ行くの!?
もえぎも……


・・・
ある人と
内緒話
また後でね
もえぎ
っ……？
う……
うん……


ふふふ…

皆
このマフラーに
気づかなかったわ…！
カシャン…
ふふふ
本当に私にしか
姿が見えて
いないのね…！
昨日の夜見た
大きな蛇さんの
夢がまさか
夢では
なかったなんて！

それで
王様
五千年ぶりの
地上は
お楽しみに
なれまして？

ふん…！
ちっと見ねぇ間に
ずいぶんと
様変わりした
もんだ…！
六番目の王
蛇王
まず
地上に住む
生物のレベルが
低すぎるぜ…！

大体
なんだぁさっきの
茶番劇はよ!!
「女王様〜」
だと!?
くだらねェ!!
うふふふ
それで
悦に入ってる
てめえの程度も
知れろぜ小娘!

ふふ…
だって
みんな
親しみを込めて
私をそう呼んで
くれているのよ
嬉しい
じゃない

それにみんな
毎朝
とっても
楽しそう!
今更 女王様って
呼ばないでー
なんて言えないわ
うふふ
ドキーン
毎朝
やってんのか
アレ…!

けっ…!
まあ鼠王が統治する
世界なんざ この
程度だろうな…!
しょせん野郎は
王にふさわしく
なかったって
ことだ…!

だからだ
今度こそ俺様が
勝者となって
地上を支配…
って
何してんだ
てめえああ!!
あら!
ごめん
あそばせ
私
かわいいものに
目がありま
せんの!
王様も
とってもキュート!
うちのペットに
したいぐらい
ですわ!
ブチ
ブチ
ペットだと!?
人間の分際
でええ!!
いーか小娘
よおく聞け!!
てめえの
目の前にいるのは
蛇の王…!!
この地上よりも
高次元の世界
神界に住む
十二頭の
「獣の王」
その中の
一頭だ……!
てめえが
とりまきどもに
呼ばせてるような
まがいものの
王じゃねェ…!
本物の王
なんだよ…!!

五千年に一度
十二頭の獣の王は
地上に降り立ち
王の中の王を
決めるための戦争を行う…!

その名も
「獣王戦」!!

この戦いに敗北し
脱落した王には
十二番から順に少なくなる
番号が与えられ
位付けされていく…!

そして
最後に生き残った
勝者…!
つまり序列一番目の
王だけが…

地上の
生きとし生ける者
全てを支配する
権利を得る!!

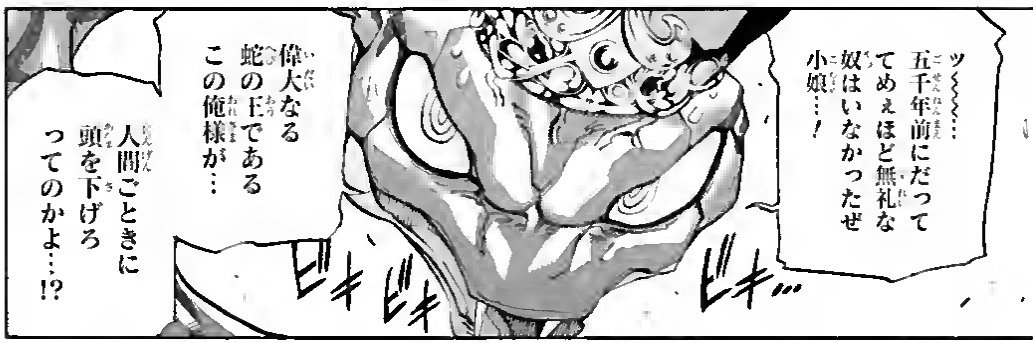
だが
「獣の王」の
力はあまりに
強大!!
地上で王同士が
ガチでやり合えば
世界は七日で
火の海だ!!

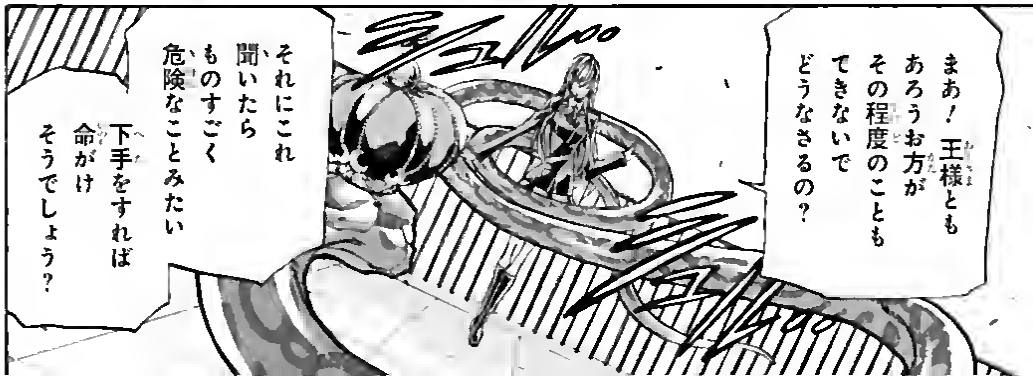
そこで 王の姿を
見る事ができる
特別な素養を持った
人間!
この人間を探し出し
手駒として
王の力の一部を
貸しあえッ
駒同士の
代理戦争にて
決着をつける!!!

光栄に思え
王の戦いに
参加できることを…!
そして
死にもの狂いで
勝て…!
俺様が…
王の中の王
となって
世界を支配
するためにな!!

「お願いします」
を忘れていてよ？

は……？
なに……!?
人にモノを頼む時はまず「お願いします」
今の時代では常識ですわ王様


ツ〜〜〜…
五千年前にだってめぇほど無礼な奴はいなかったぜ小娘…！
偉大なる蛇の王であるこの俺様が…
人間ごときに頭を下げろってのかよ…!?
ビキ
ビキ
ビキ…


まあ！王様ともあろうお方がその程度のこともできないでどうなさるの？
それにこれ聞いたらものすごく危険なことみたい
下手をすれば命がけそうでしょう？

王様 人の価値観というものは時とともに変わっていくもの
五千年前ならいざ知らず
今時の女子高生が見ず知らずの王様に命令されたところで命をかけた戦いに臨もうなんて思いませんわ

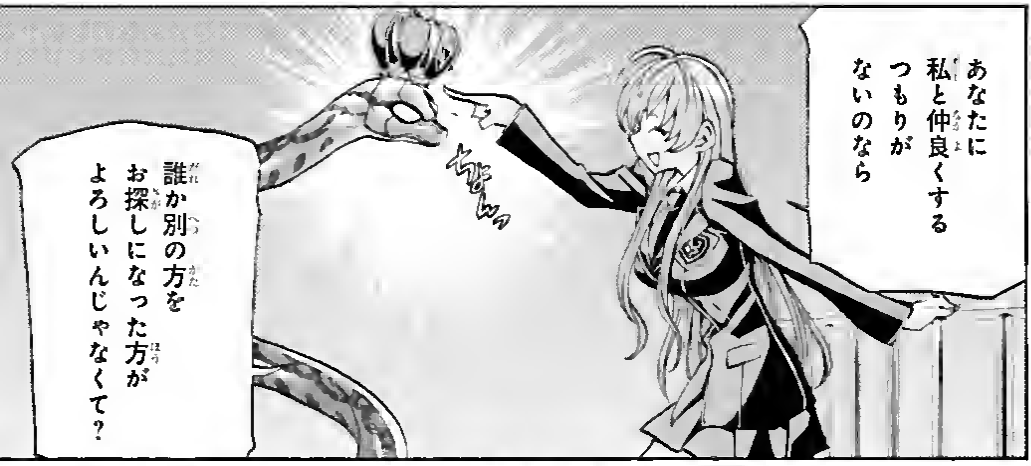
王の…命令を拒否する…ってのか……!?
ゆ……
許されることじゃねェ…!!

……
王様
実は私さっきからずっとヒヤヒヤしてましたのよ?

もし王様に反抗的な態度を取ったらどうなるか
命令を拒否したとしたら
どんな罰が下されるのかとドキドキしていたけれどどうやら……おとがめなしのようだわ…!

これはつまり
あなたには
命令を強制する
権限はない
ということ…！
だとすれば
あなたが私との間に
築くべきは
主従関係ではなく
まず
信頼関係
のはず…！
こいつ…！
試してやがった
のか…！
さっきの
会話の
中で…！
俺様を
……!!

王様
あなたのことは
かわいいから
とても好き
だけど


あなたに
私と仲良くする
つもりが
ないのなら
誰か別の方を
お探しになった方が
よろしいんじゃなくて？

それに それに！
かわいい動物の
王様同士で
戦うなんて
悲しすぎるじゃない!?
そうだわ！
いっそ戦争なんて
やめて 皆で一緒に
暮らしましょ！
他の王様も皆
うちのペットに
なればいいわ！
名案ね！

すぐにまた
バカな
人間のガキに
戻りやがった…
つかめねェ
奴……
だがな…
…待て
だったら…

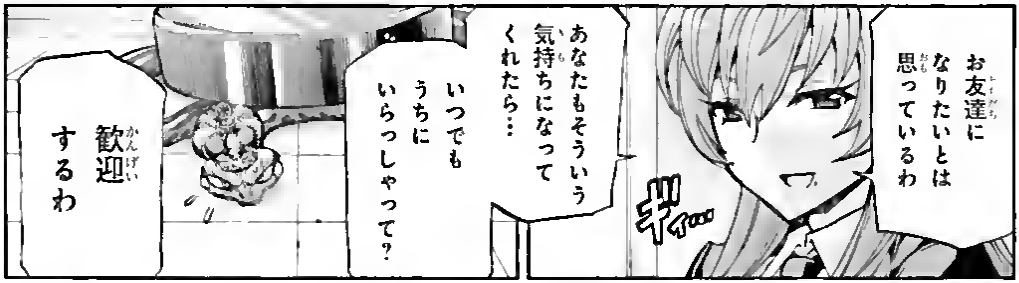
見返りを
くれてやる…
本物の女王に
してやるぜ…？

俺様が
王の中の王になれば
全ては思いのまま
その妃なら当然
どんな願いだって
叶えられるぜ…？
知ってるぜ
人間ってやつの
本性は…
学校の連中に
チヤホヤされる
だけで満足か？

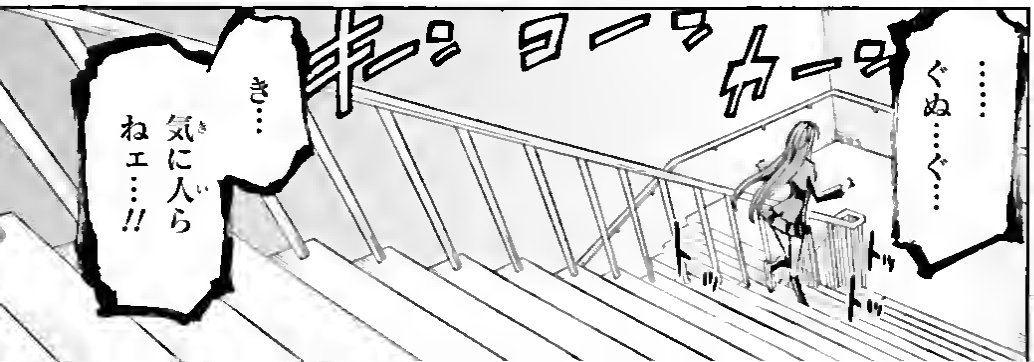
欲深い
生物だって
ことをな…
全てを
支配したいと
思わねェか…？
……
王様……

お気持ちは
ありがたいけど
ごめんなさい
できれば
二本足の殿方と
結婚したいの！

さあ
そろそろ授業が
始まるわ
私はこれで
失礼
いたします
あっ それから
王様
戦争のことは
おいておいて
私は
あなたが好きよ
だから


お友達に
なりたいとは
思っているわ
あなたもそういう
気持ちになって
くれたら…
いつでも
うちに
いらっしゃって？
歓迎
するわ

うちの場所は
覚えてらして？
今朝来た
道
うるせええ
とっとと行け
クソガキィイ!!


……
ぐぬ…ぐ…
き…
気に入ら
ねェ…!!

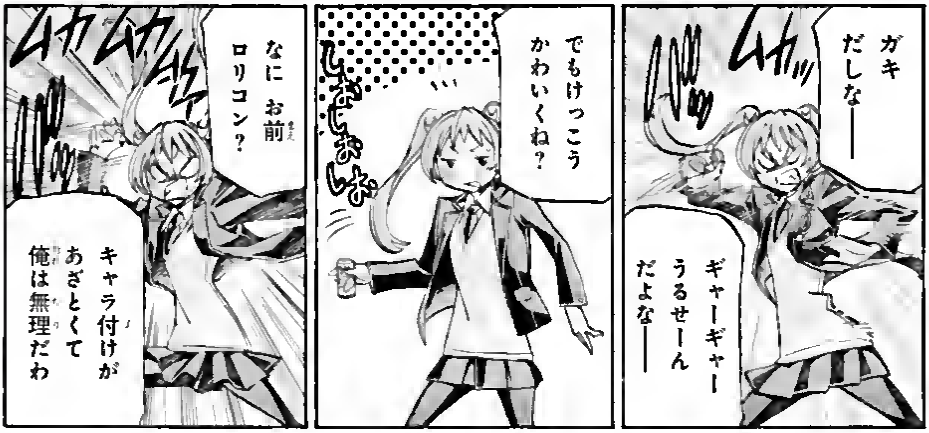
完ッ全に
なめやがって
あの小娘!!
たかが人間が
この俺様をコケに
しやがった…!!
絶対に
許さねェェ
!!!
別の人間を
探せだと…!?
いやだね…!
絶対にあいつを
平伏させてやる!!
ひざまずかせて
俺様のしっぽを
なめさせてやるぜ…!!

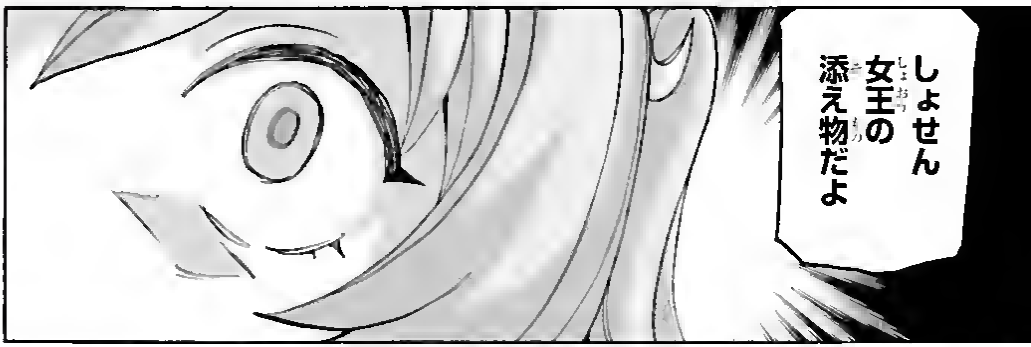
!

この
気配は!!
まちがいねェ
奴だ…!
こんな近くに
いやがったとはな
…!

ゴッ
あ
ムカツくっ！
ゴッ
なんで
もえぎが
ブタに謝んなきゃ
いけないわけ!?
もえぎに
悪い要素
いっこもないん
だけど!!
ぷりぷり
あーんもう！
まかべちん
最近冷たいよー！
さっきだって
一人でどっか
行っちゃうしー！
じたばた
じたばた
やっぱさ——
宝田は
ねェよな——
宝田
もえぎ？
そうそう
真壁様の周りで
うろちょろしてる
やつ

幼なじみだか
なんだか
知らねーけどさ
レベル
違いすぎんべ
地獄耳…
レベルどころか
魂のステージが
違うわ
ははは
言えてる


ガキ
だしな――
ギャーギャー
うるせーん
だよな――
でもけっこう
かわいくね？
しずおちゃん
なに お前
ロリコン？
キャラ付けが
あざとくて
俺は無理だわ


しょせん
女王の
添え物だよ

ごあッ!!?
うおッ
えええええ
ええ!!?

ちょ…誰…!?
宝田かよ
おえええええい!!

ひでええええ
中身入ってる
じゃねェかああ!!

俺けっこう
好意的なこと
言ってたのにィ
イイイイ!!

うるさい!!
うるさい!!
うるさい!!!

なんで
あんたたち
なんかに
そんなこと
言われなきゃ
いけないの!!?

小さい頃は
もえぎだけの
まかべちん
だったのに…!

いつの間にか…

皆のまかべちんに
なっちゃって…!

なんであいつ
いっつも横に
いるの?

え?
あれ
同い年?

お付きの者

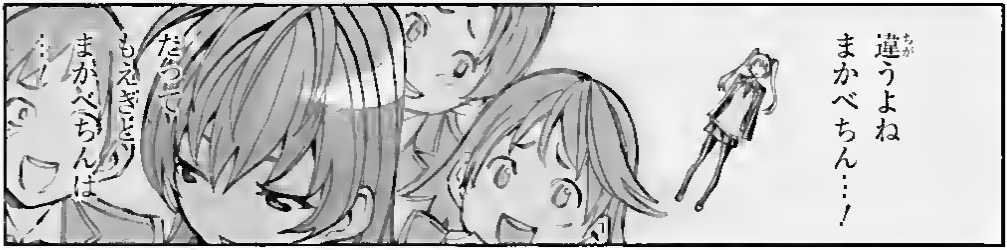
添え物

妹じゃ
なくて?

あ
キミは
いいから

うるさい うるさい！
ほんっとうるさい!!
たしかに
まかべちんは
キレイで
優しくて
おっぱい大きくて
もえぎなんか
全然かなわない
けど……！
だからって
もえぎがそばにいて
何が悪いの!?

まかべちん……！
まかべちんも
もしかして
もえぎのこと
添え物だって
思ってるの……!?
だから
まかべちんは
もえぎだけの
まかべちんじゃ
なくなっちゃったの……!?

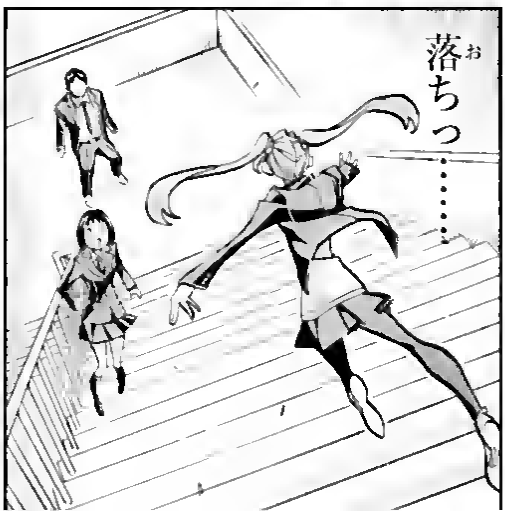

違うよね
まかべちん……！
だって
もえぎとり
まかべちんは
……！

お願い まかべちん……！
こっちを向いて
「違う」って言って……！
こっちを
向いて……！
もえぎを……
見て……！

寂しいよ
まかべちん…！
もえぎを
もっと見て…!!

あ……！
うそ…
やばっ……

!!


落ちっ……

キミの心の中は…
!?
!?
「寂しさ」で満ちている……
僕と同じだね…
ドン

怖がらないで
僕は
キミの味方…
宝田もえぎ…
僕が一番目になる
手伝いをして
くれるなら…
僕もキミの
力になって
あげる…！

ふふふ
キーンコーン
昼休み
カーンコーン

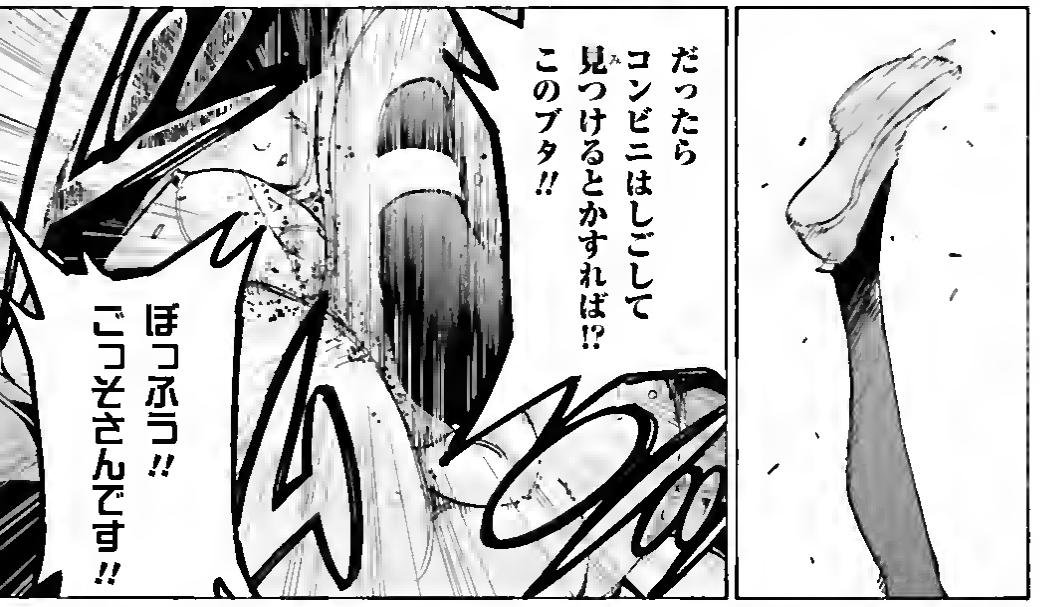
今朝はもえぎに冷たくしすぎてしまったわ
大好物の野菜スティック
これで機嫌を直してくれるといいのだけれど

真璧様ァ〜〜〜ッ
ざわざわ
真璧様一大事ですぅ〜!!
!

あっ真璧様こちらに!?
どうしたの一体?
悪いのだけど私今からもえぎと昼食を…
ばた
ばた
大変なんですその宝田が!
その宝田がァ——〜〜ッ!!

ねぇ～～～
もえぎさぁ～
ちゃぽ
ちゃぽ
野菜ジュース
飲みたいって
言わなかったっ
け～？

ももも
申し訳
ありません
実は
ご所望の
野菜ジュースが
うう売り切れて
おりまして…
わわ私の
独断で
ペペペ別の
ものを…


だったら
コンビニはしごして
見つけるとかすれば!?
このブタ!!
ぼこふら!!
ごこそさんです!!

しかもなんで
コーラなわけ!?
炭酸飲めない
もえぎへのあてつけ!?
あ…
あれです…！
まあ！
たた炭酸飲めない
もえぎ様萌え…
ごふう！

あッ
まかべ
ち――ん！
こっち
こっち――！
こへ☆

もえぎ…♡
気のせい
かしら…？
いつにも増して
かわいいわ…！
そうなんです
困ったことに…！

見て見て
まかべちん！
もえぎ
「女王様」に
なったよー！
まかべちんと
おそろい――!!

ねェねェ！
すごい!?
もえぎ
すごい!?
なでなで
ええ
すごいわ！
すごいかわいい！
ふんすふんす
ってゆーか
いつまでそこに
いんの ブタ!!
早く
買って
きてよ!!
げしげし
は…はいぃ～
ただいま～！
ねェ ちょっと
あなた
大丈夫？
玄五郎くん……
だったかしら
！
私のような
者の名前を
覚えていて
くださったとは…！
大丈夫…！
私は自らの意思で
もえぎ様におつかえ
しているのです～
まかべちん…！
なんで
そんな奴のこと
気にするの？
ほっとき
なよ…！
それよりもっと
もえぎを見て…！
……!?
もえぎ……？
これでもまだ
足りないの？
もえぎ
かわいくなって
女王様にも
なったのに…
まだ もえぎだけを
見てくれないの!?

せっかくバニちゃんの力でかわいくなったのに…！
まかべちんがもえぎだけを見てくれなきゃ意味ない…！
どうしたら見てくれるの……!?

もえぎ……あなた変よ…!?
バニちゃんって一体誰……？
その服の下になにかいるの!?

それは俺様が
教えてやるぜ…！
!!
王様!?

ところ構わず
フェロモン
まき散らしやがって
臭くてたまらねェ
――ぜ!!

てめえの
得意技だった
よなあ!?
「兎」は〝性の象徴〟
だからよ!

とっとと姿
見せやがれ!!

四番目の王

「兎王」…!!

もえぎと
うさぎ……!!
かわいさの
ダブル
トッピング!!
やあ
蛇王か
久しぶり
四番目の王兎
最初に
キミと
あたるとはね
ところで
僕より二つも
位が下のクセに
ちょっと態度が
でかくないかい?
けっ…!
二番目以下の位に
大した意味なんか
ねェーだろが…!
まぐれ勝ちの
くせに てめぇこそ
イキがってんじゃ
ねェよ…!!
あいかわらず
カンにさわる
奴だね…!
まぐれかどうか
試してみる
かい…!?
もえぎ!
どうやらキミの
大好きなまかべは
敵の王の代理人
だったらしい!
どうだろう
ここは
「獣王戦」で
彼女と勝負
してみては!?
彼女に勝てば
きっとキミのことを
見てくれる!!
本当…?
バニ
ちゃん…!

王様……!?
お——
お——
怖エ——!
向こうは
殺る気
マンマンだぜ!!

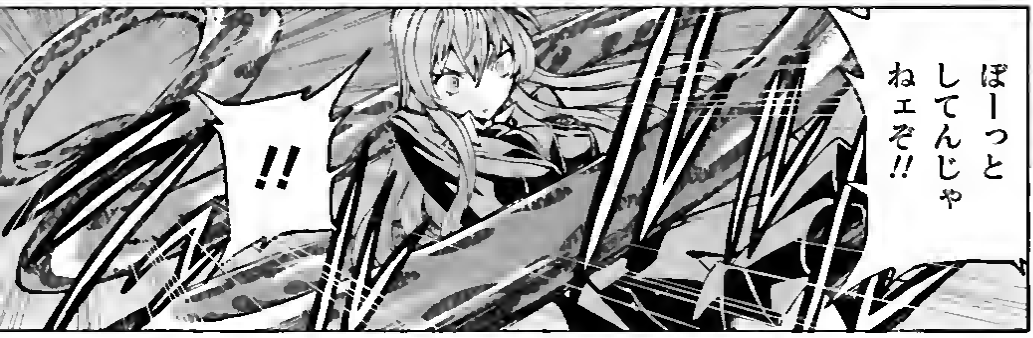
ことが
うまく運びすぎてる
……!
王様…あなた
なにか知って
いたのね…!
クックッ
気づかな
かったか…!?
あの
二つしばりのガキは
最初から俺様が
見えていたぜ…!?

だって
まかべちん
寒そうだから
なにか
あった時の
予備にする
つもりでいたが…
まさかこんな形で
役に立つ
とはな…!!

さぁどうする
女王様…!?
俺様の力を
借りなきゃ
てめぇは…
あのガキに殺され
ちまうぜ…!?
それでわざと
挑発を…!

もえぎ
聞いて！
私は
あなたと争う
つもりはないわ！
いい子
だから…！

お……
おわあああ
〜〜〜〜〜ッ
さすがの私も
こんな衝撃は
人生初です
〜〜〜〜!!


!!
ぼーっと
してんじゃ
ねエぞ!!

な…
なんだ
ありゃ…!?
空が
割れて
夜空が…!
バカな…!
まだ昼
過ぎだぞ!?

クックッ…
おでまし
だぜ…!

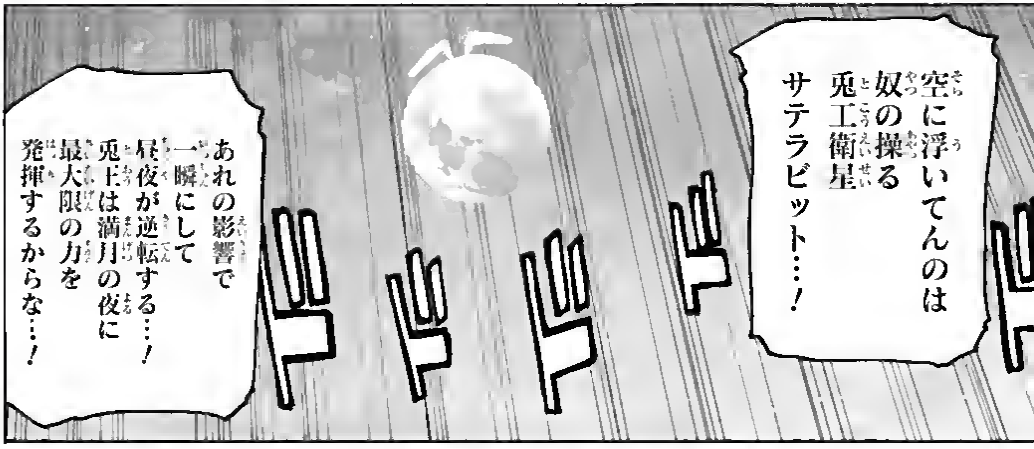
新手の
スタンド使い
か——!?
危ねぇ
危ねぇ…

さあ
戦ろっか！
まかべ
ちん！
クックッ
さて
女王様…
まずは俺様に
土下座する
とこから
始めようか…!?
前編 END

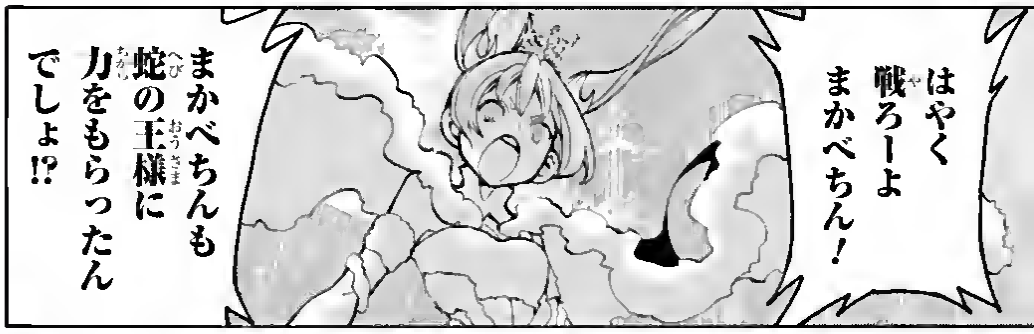
後編
コウヘン

一体(いったい)
どうなってんだ
いきなり夜(よる)に
なっちまったぞ!!
さあ
戦(や)ろっか!
まかべ
ちん!!

あそこに浮かんでるの…
あれ月か!?
なんか変な形だけど…
な…なんだあいつは…!?
うさぎのコスプレ…!?
あの姿は!?
あのガキは今「兎の王」の力を体に宿してる…！
まあ単純に身体能力だけ見ても常人の500倍はあるだろうぜ…！


空に浮いてんのは
奴の操る
兎工衛星
サテラビット…！
ド
ド
ド
あれの影響で
一瞬にして
昼夜が逆転する…！
兎王は満月の夜に
最大限の力を
発揮するからな…！

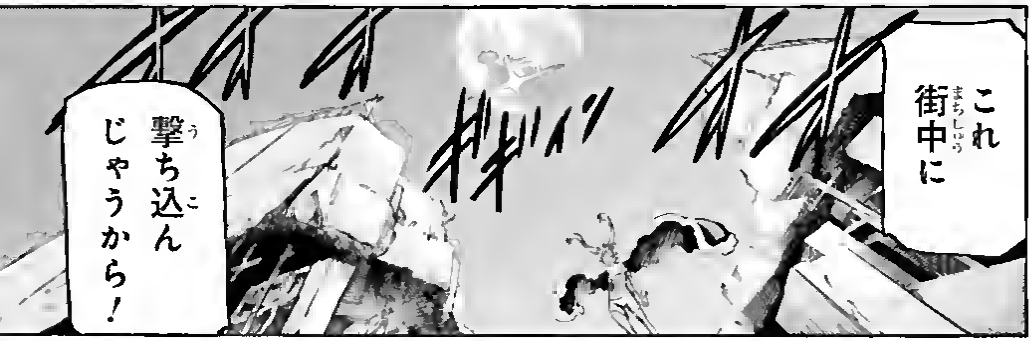
どーだ…？
地球の自転すら
操作する
獣の王の力…！
ま それでも
戦り合えば
勝つのは
俺様だろう…！
てめえのしたことが
どれだけ恐れ多い
ことだったか
理解したかよ…!?

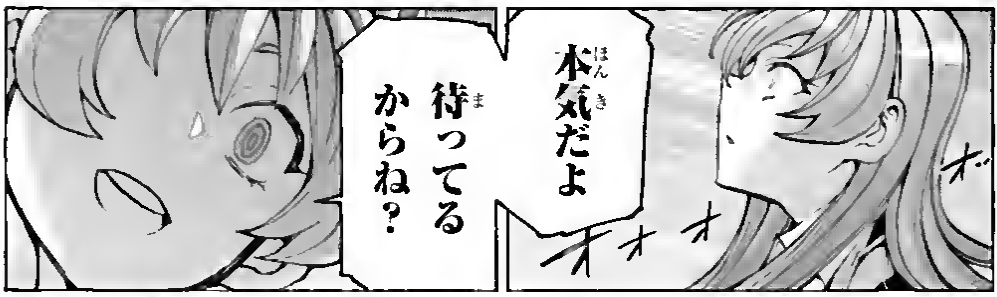

はやく
戦ろーよ
まかべちん！
まかべちんも
蛇の王様に
力をもらったん
でしょ!?

おい
さっさと
応えてやれよ
どーした…？
ド
ド
早くしねえと
踏み潰されちまうぜ？
ぷちっと虫ケラ
みてえになあ…!!
クックックッ…

わかった！
まかべちん
優しいから
学校じゃ
戦えないって
言うんでしょ!?
じゃあ 場所
変えよっか！

とりあえず
あそこ！
あのタワーの
屋上にしよ！
もえぎ
先に行って
待ってるから！
もえぎ
絶対
来てね！
じゃないと…


これ
街中に
撃ち込ん
じゃうから！


本気だよ
待ってるからね？
オォォ

何者だったんだ
今のうさぎ
コスプレイヤーは!?
夜だよもう
家帰って
いいのコレ!?
校舎
壊れちゃってん
じゃん!
ケガ人は!?
真壁様
おケガは!?
クックックッ
予想以上の
じゃじゃ馬だぜ
あのガキ…
いや兎か
命びろい
したなんて
思ってねえよな?
どこに逃げたって
…
あいつはてめえと
勝負つけるために
追ってくるだろうぜ
つーか
逃げたら街
メチャクチャだけどな
まあ俺様としちゃ
それでもいいけどよ
街を見捨てりゃ
てめえの女王様の
メッキもはがれる
てめえの
無様な姿が
見られるって
わけだ…!
ッ……ッ
王様……ッ

こうなったのは
全部てめえのせいだ!!
てめえが王である俺様を
なめやがったせい
なんだよ!!
わかったらとっとと
無礼を詫びろ!!
俺様に命乞いを
しろ!!!
「『王の力』を
貸してください」と
地面なめまわし
ながら懇願しやが…

れげ!!?

王様
失格だわ…!

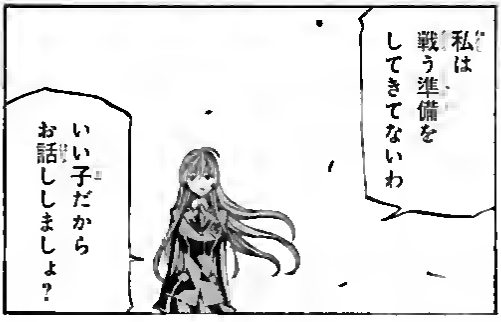
迎えにきたわよ

まかべちん
おっそーい！
ごめんなさいだって
遠いんだものここ
三キロぐらいあったわ

もえぎ
れ？
ヘビは？
キョロ
キョロ
一人で
来たわ
もえぎ
少し
お話し
しない？

!?
……
なんで……!?
もえぎ、気をつけて！蛇の王がどこかに隠れてるかもしれない！
あいつは狡猾なやつだからね…！

話なんてしないよ！
戦おって言ったじゃん！


私は戦う準備をしてきてないわ
いい子だからお話ししましょ？

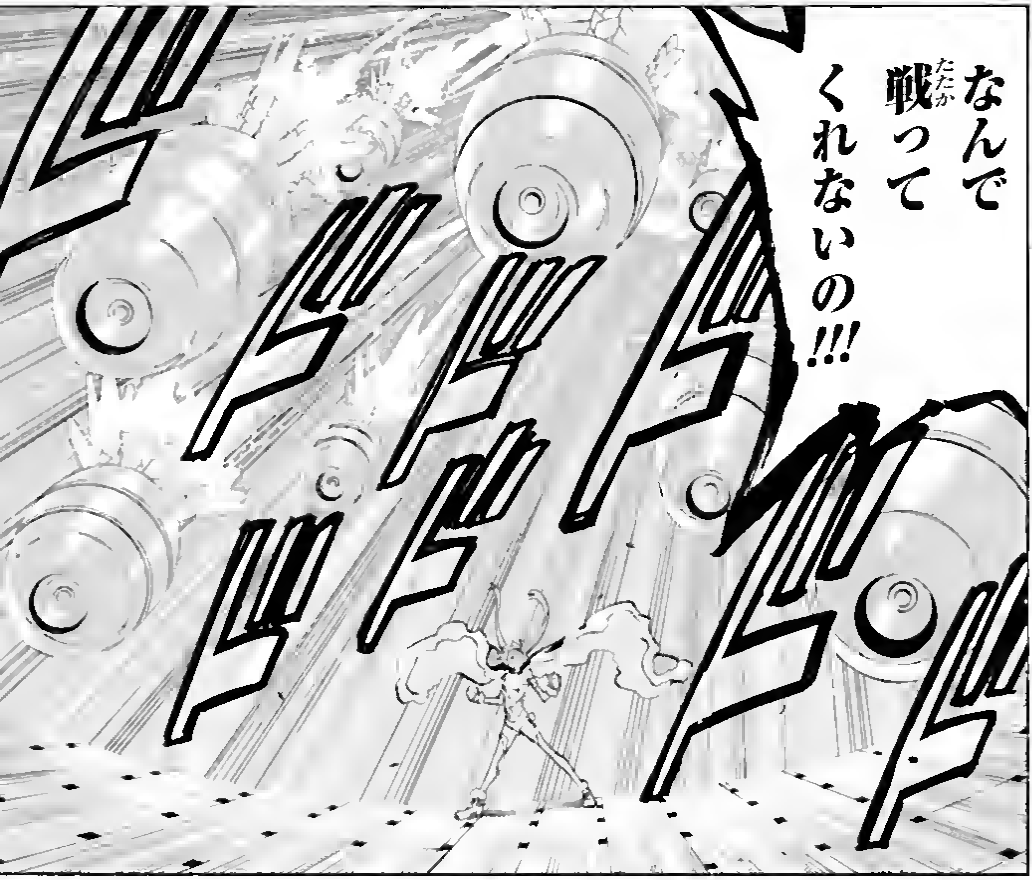
戦う価値ないってこと!?
もえぎが…
まかべちんの添え物だから!?

まあ……！
誰が言ったのそんなこと…！

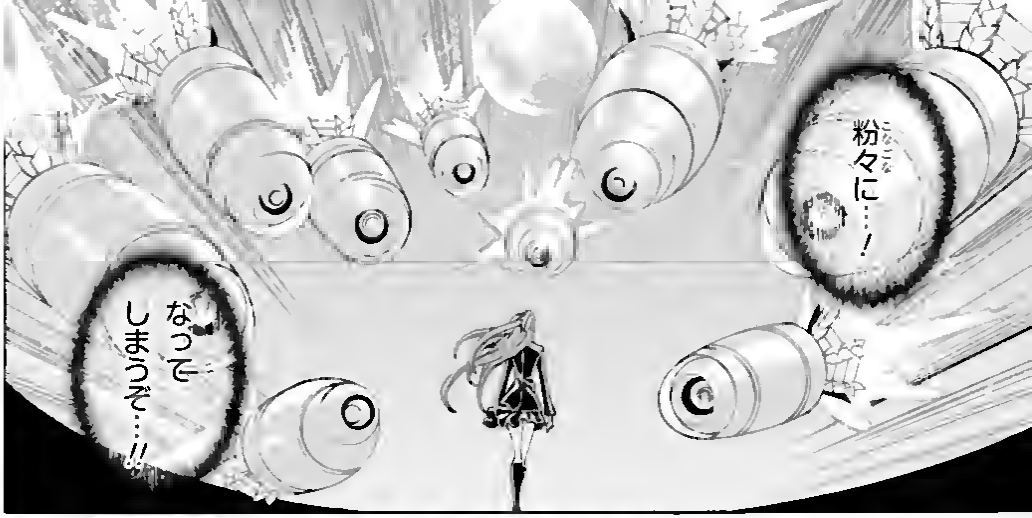
みんな思ってる！
みんなだよ!!
まかべちんだってそう思ってるんでしょ!?

そんなこと…
これっぽっちも思ったことなんてないわ…!!

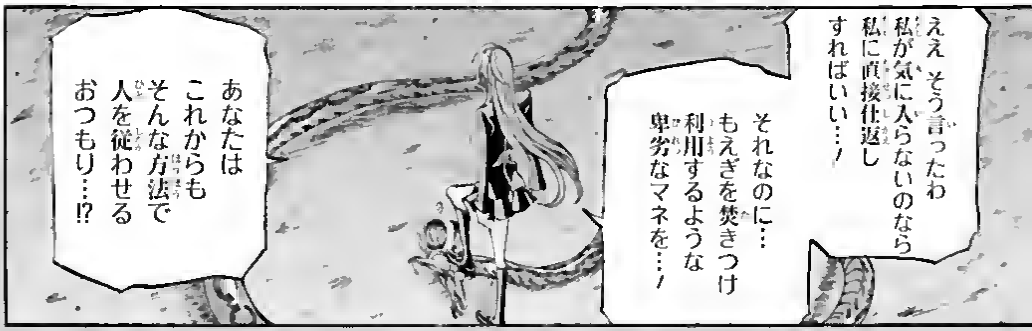
じゃあ
なんでなんでなんで
なんでなんでなんで
なんでなんで
なんでなんで
なんでなんでなんで
なんでなんでなんで
なんでなんでなんで
ジャカ
ジャカ
ジャカ
ジャカ


なんで
戦って
くれないの!!!

さあ 早く
姿を現せ
蛇王!!
早く出てきて
助けないと
キミの代理人は
……!!


粉々に…！
なって
しまうぞ…!!

俺様が…
王失格
だと…!?


ええ そう言ったわ
私が気に入らないのなら
私に直接仕返し
すればいい…！
それなのに…
もえぎを焚きつけ
利用するような
卑劣なマネを…！
あなたは
これからも
そんな方法で
人を従わせる
おつもり…!?

ぐっ…が…
うるせえ…
何が悪い…！
今までだって
気に入らねえ奴は
どんな手使っても
必ず平伏させて
やった…！
それが蛇の王の……
俺様のやり方
なんだよ……!!

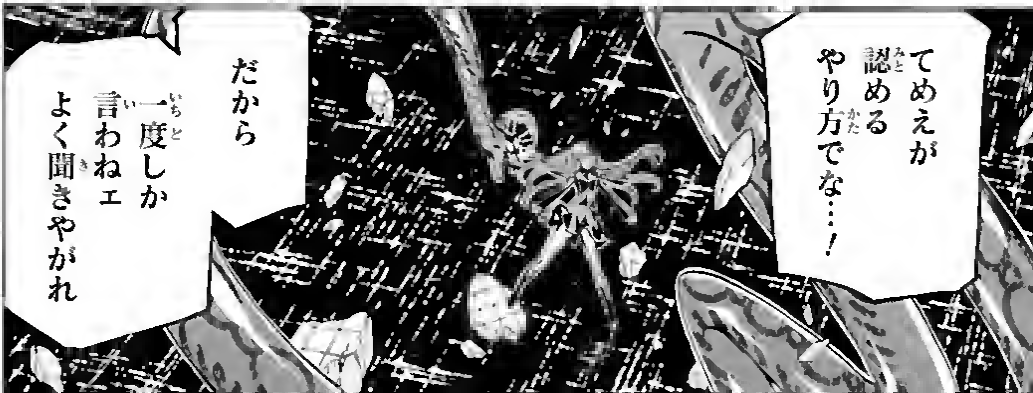
そんなやり方で
世界を
支配したとして
一体 誰が
あなたに
本物の忠誠を
誓ってくれるの…？
一体誰が
あなたを王だと
認めてくれるのかしら……!?

従ってくれる人がいて
初めて王は
王たりえる…！
一人ぼっちの王は
王とは言えないのでは
なくて…!?
誰とも
心を通わせ
ない…
まッ…
通わせ
られない
あなたは…！

王に……
ふさわしくない――……!!
……死ぬ気かよてめえ……

考えが
あるんだか
ないんだか
全くわからねェ…
蛇よりも
得体の知れねェ
奴だぜ…！
偉そうに
俺様に説教
たれやがった
後で
生身で
獣の王の前に
立つなんてよ…！

おい
決めたぜ
小娘…！
てめえに
コケにされたままで
死なれたら
俺様の気が済まねェ…！
認めさせてやるぜ
俺様がいかに
王として
ふさわしいかを…

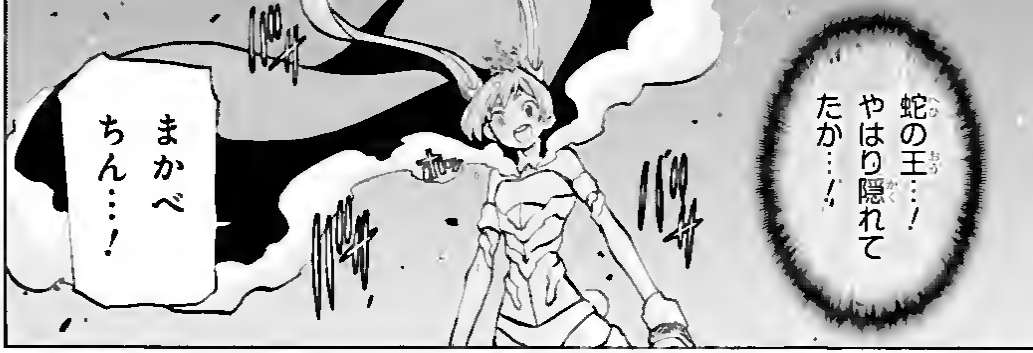

てめえが
認める
やり方でな…！
だから
一度しか
言わねェ
よく聞きやがれ

てめぇの力を
貸せ 頼む…!!
「お願いします」だ
バカヤロウ!!!

ギャラララ

ええ
王様(おうさま)……

よろこんで…！


蛇の王…！
やはり隠れてたか…！
まかべちん…！

うふふ
王様
きっと助けてくれると思っていたわ
だから私も安心してここに来たのよ？
けっ…！
よくうぜえ小娘が…！

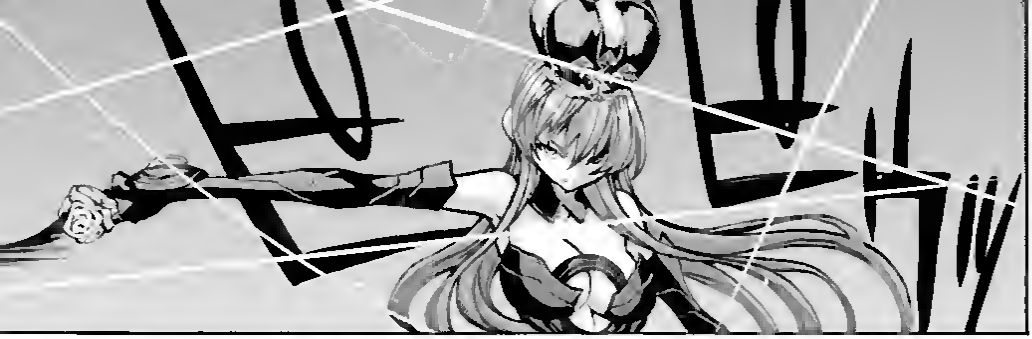
小娘じゃないわ
王様
！
涼子よ

真壁涼子…！
覚えてね……？
けっ…！
…ゆいか
リョウコ
よく聞きやがれ…！

あのガキは今
王の力にちてられて
一種の昂揚状態に
ある…！
このままじゃ
何しでかすか
わかったもんじゃ
ねエからよ
まずは
兎とガキを
ひっへがすんだ
きっついやつでなぁ!!
！
ふう……
気がすまないけど
やむなしね…
おいたがすぎる
悪い子には
おしおきも
必要だもの

言わば
これは
愛の
ムチ……!!
蛇のムチ
だけどな…!

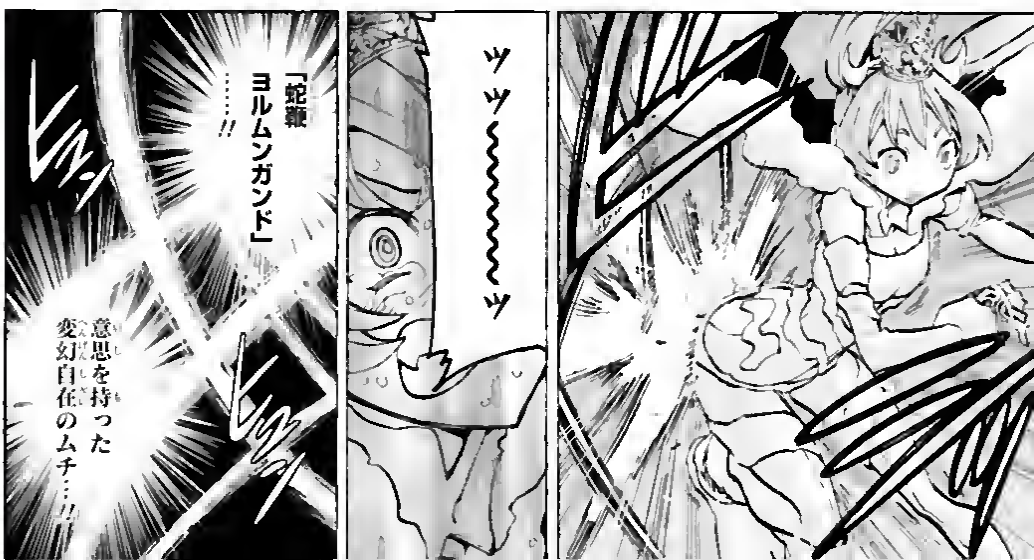
おしおき!?
いいよ!!
してして
まかべちん!!



もえき
気をつけて!!
ただのムチじゃ
ない…!!

!!

何コレッ……!?
ムチがめちゃくちゃにはねて…!!

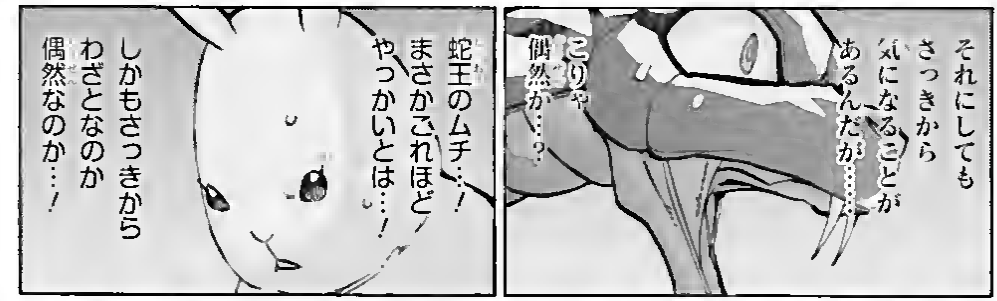

ツツ～～～～ッ
「蛇鞭 ヨルムンガンド」
……!!
意思を持った変幻自在のムチ…!!

物理法則を
無視して
無作為に
跳ね回る…!!
その軌道を
読むことは
ほぼ不可能…!!
ぶっちゃけ
俺様にも
わからん!!
ダメじゃない
ちィッ

あ
いっ〜〜〜〜ッ
だが予測不能故に！
不可避!!!
いッ
だッ
じ〜〜〜ッ

うぎぎぎ
ぎぃ〜〜…
いだい〜〜…！
も…
もえぎ…！

ギャッハッハ
なかなか
やるじゃ
ねェか
リョウコ!!
兎の野郎
お得意の
機動力を
封じられて
何もできねェ
でやがる!!

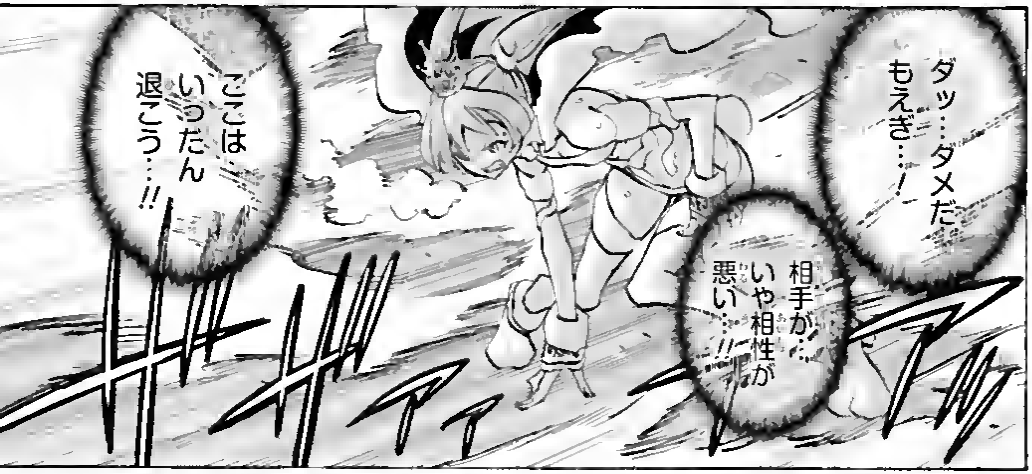

それにしても
さっきから
気になることが
あるんだが……
こりゃ
偶然か…？
蛇王のムチ…！
まさかこれほど
やっかいとは…！
しかもさっきから
わざとなのか
偶然なのか…！

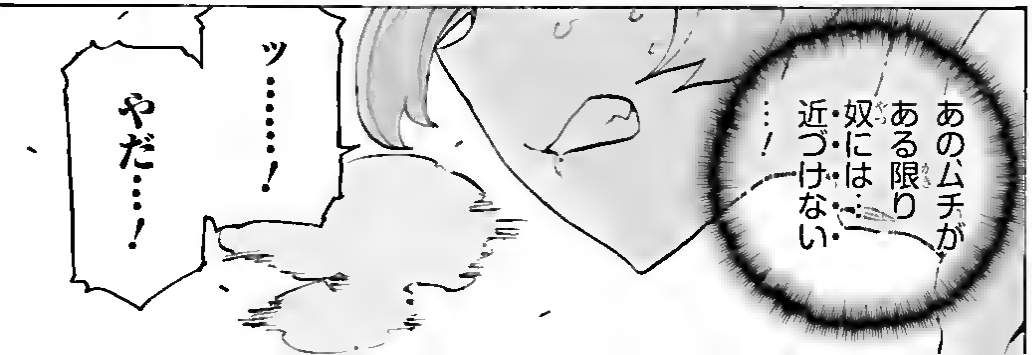
ムチを周囲の
障害物に
何度も反射させて
十分威力を
殺した上で
執拗に…！
的確に…!!

いぎッッ
おしりばかり
狙っている…!!?
悪い子には
おしりぺんぺん

ムリムリ！
あの気まぐれな蛇鞭を
ただの女子高生が
完全に使いこなすなんて！
偶然だ偶然！
なーんだハハハー
偶然バンザイ！
よ…
よーっしゃ
行け
リョウコー!!

わあああッ


ダッ…ダメだ
もえぎ…！
相手が…
いや相性が
悪い…!!
ここは
いったん
退こう…!!


あのムチが
ある限り
奴には…
近づけない
…！
ッ……！
やだ…！

近づけない
なんてやだ!!
もえぎは
まかべちんに
近づかなきゃ
ダメなの!!

バカが…
隙だらけだぜ…!
はたき落とし
ちまえ…!!
しッ!

ここで
逃げたら
一生近づけない!!
そしたら
一生
まかべちんにッ
もえぎを
見てもらえ
ないッ!!

認めてッ
(みと)
もらえないッ
だから……
メテオムーン…!!
だから!!

勝(か)たなきゃ

ダメなの…!!!

ちっ…!
逃げろ…!
ありゃここら辺
帯ぶきとふぞ…!!

いいえ
王様(おうさま)…!

迎(むか)え撃(う)つわ
こちらも…

全力(ぜんりょく)で…!

あるわよね?
こちらにも
あれと同(おな)じ
必殺技(もの)…!

ちっ…!
どうなっても
知らねえぞ…!!

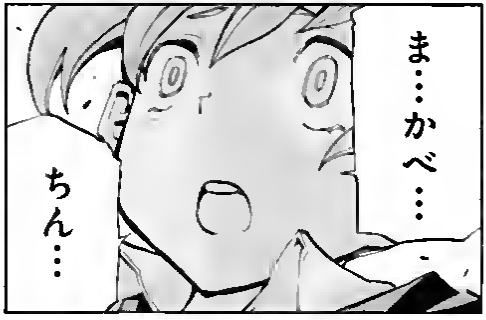
もえぎ…！
鞭
大
蛇
あなたの気持ち…！
受け止めるわ!!

ああ、やっぱり
やっぱり勝てなかった…

まかべちんに勝てば対等だって認めてもらえるかもって…
そしたらまた昔みたいに…もえぎだけ見てくれるかもって思ったのに…

結局もえぎは……
まかべちんには近づけなかっ……

もえぎ…！


ま…かべ…
ちん…

もえぎ…
ごめんなさい…

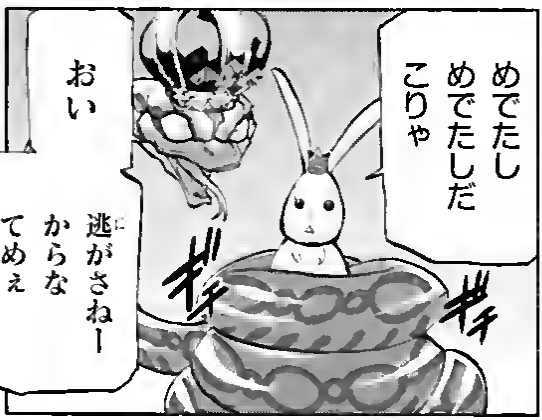
あなたの悩みに気づいてあげられなかったわ…
寂しい思いをさせてしまって…
本当にごめんなさい…！

じわっ…
もう離れたりしない…！
だからもえぎにもお願い…
今度何かあったら必ず私に相談して…？
だって親友に心の内を明かしてもらえないなんて
それこそうさぎみたいに寂しく死んでしまいそうだもの…！
ッ…ッ…
ふぐコ…
ぎ…
がべ…
ぢん…
ひぐコ…
親友…

ぎがべ
ぢんッ…
好(す)きッ…！

ふふ……
私(わたし)も
大好(だいす)きよ…

もえぎ…
キミはもう…
寂(さび)しくなんて
ないんだね…


めでたし
めでたし
だ
こりゃ
おい
逃(に)がさねー
からな
てめぇ

翌日

……結局

昨日の騒ぎでケガをした人はいなかったみたい

安心したわ

壊れた建物も魔法みたいに元に戻ってしまった…

ふふ不思議なこともあるものね

もえぎ実は興奮してて所々よく覚えてなくって…

建物は直ったけど人とかだったら治ってたかどうかわからないよね…

地上にあまり影響を及ぼさないようにするための措置みたいだね

もえぎの言う通り無生物の破壊のみ無かったことになるようだ

五千年前にはなかったなこんなサービス

おい……

おかしいだろ……

なんで
てめぇが
しれっとここに
いるんだよ!!
ギャー
ギャー
ギャー
だって
もえぎとまかべが
いていいって
言うから——
それにほら
僕って寂しいと
死んじゃうし!

死ね死ね
死にやがれ!!
てめぇは俺様に
負けただろうが!!
リョウコ!
とどめ
さしてやれ!!
お断りします
王様
こんなにかわいい
兎の王様に
そんな酷いこと
できませんわ

ふざけんじゃ
ねェ!!
これじゃ勝敗は
どうなるんだよ!!
負けた王は
魂だけになって
神界の牢獄に
閉じ込められる
決まりだろ!!
王同士が
和解するなんて
初めてだし
色々と審議中
なんじゃない?
和解
してねェーわ!!
審議って進まねーよ!

いいじゃ
ありませんの王様
皆で仲良く
しましょうよ
王たる者
海より広い心を
持つべきですわ!
ね——!
いやなら
あんただけ
どっか
行けば——?
ツツ〜〜〜〜〜…
ムカつくコイツら

私に王様らしいところを見せてくださるのでしょ？

王様？

…ぐ…ああ…！

必ず俺様を王と認めさせてやる…！

その時は俺様に従ってもらうぜ…!!

ああそれにしても次はどの王様に会えるのかしら？

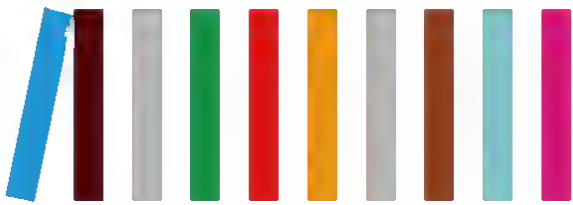
全員とお友達になれたらとっても素敵よね！

なれるかバカ戦え――!!

残る十二頭の獣の王

依然

後編 END



BOOK☆WALKER

カドカワデジタルコミックス

獣の女王

著者 横田卓馬

© Takuma YOKOTA 2015

2015年5月11日 発行

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
『獣の女王 前編』(月刊ヤングエース2014年1月号掲載)
『獣の女王 後編』(月刊ヤングエース2014年2月号掲載)

発行者 堀内大示
発行所 株式会社KADOKAWA
http //www.kadokawa.co.jp/

〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
03-3238-8745(営業)
編集 角川書店
〒102-8078 東京都千代田区富士見1-8-19
03-3238-8541(編集部)

装幀・デザイン 岡裕希(アラスカ)

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信したり、
ホームページ上に転載することを禁止します。
また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず
本作品を第三者に譲渡することはできません。
本作品を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に
予告なく変更される場合があります。
ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは関係がございません。

獣の女王

QUEEN OF THE BEAST

ORIENTAL ZODIAC WAR